

遊びと体験を通して学ばせること それが永年の経験と実績に基づいた 保育の最大の目標です



「バンザイ、今日はお庭で水遊び。」0-157などの対策も考えて、水質チェックやお尻を清潔にしてから、お水に入って遊びます

REPORTER'S EYE



【リポーター】
小池 則子さん(狭山台)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがりレポートします。

みなさん、遊びに来てみませんか
元気な子どもたちが
楽しく遊びながら学んでいます

狭山台の住宅街の一角で、晴れた日には子どもたちの元気な歓声が聞こえます。ここは狭山台南保育所。市内でも柏原、笹井、水野保育所とならんで規模の大きな保育所です。

今回は、市内にある公立9か所、民間7か所の保育所のうち、この狭山台南保育所の片山所長さんにお話を伺いました。この保育所は定員120名、現在106名が入所しています。入所の条件は、保護者が病気であったり、働いていたり、家族の疾病や看護などのために十分な保育ができないことで、内職をしているかたなども対象となります。また、市内のどの保育所を希望することも可能で、自分の勤め先などに近いところを選ぶこともできます。そして、市では、

「私は子どもに「教える」なんてたいそうなおことはできないの。せめて自分を正しくしておくこと。もしかしたら、子どもが見ていてくれるかも、なんて思っただけ。これが、関口さんの生き方だそうですね」

また、「里親は、その子の実の親が育てられないときだけ、育てさせていただくという気持ちでいます。その子たちの家庭復帰と社会的自立を目標に、一緒に私も楽しみながら成長していくことができるんです。」と笑います。そして、「里親制度を知らない人、たくさんいらっしゃると思っています。短期で、極端な話、一晩だけ預かったりもできるんだから、「里親、里子」というイメージじゃなく、困ったときに、近くの実家代わりってところかな、そんなふうにご利用して、ださる人がもつと増えるといいですね。私は今まで里親として周囲の皆さんに支えていただきながら続けてきましたから、これからは経験を生かしながら、少しでも誰かのお役に立てればと思っています。」と言います。いつも笑っている関口さん。子どもがいる毎日が楽しくてしかたがないという様子でした。



狭山台南保育所
▶ 狭山台4-18、☎58-0317
▶ 子育て電話相談 ☎58-1054
(毎週月・金曜日の13時30分～16時30分)

では毎月第2・4土曜日に園庭を開放したり、夏祭や運動会には一般開放をしているそうです。そして保育所にはもう一つ、素晴らしい制度があります。狭山台南保育所を窓口として各保育所の所長が電話で相談に応じる「子育て電話相談」です。身近な保育の悩みや健康の問題などに、経験を生かして応じてくださるそうです。この制度は全国誌で紹介され、今では全国から問い合わせや相談の電話があるそうです。子育てについて知りたいことがあるけれど誰にも聞けない、そんなお母さんをサポートしてくれそうです。保育所は、働くお母さんがもつと子育てをしやすいうように、もつと子どもを楽に産める社会を作るためにあります。栄養バランスを考えた、おいしそうな手作りの給食をニコニコとほおばっている子どもたちを見てみると、保育所がますます子どもたちの樂園のように思えてきました。



「今日の献立はコロケと野菜とロールパン。牛乳も大好きだよ。」保育所では、すべて献立から考えた手作り給食です

実親が育てられないときだけ
里親が育てさせてもらうんです
その子を精いっぱい愛しながらね



HITO

関口 ヒサ子さん (狭山市里親会会長)



「なんといっても、その子のためを思ったら、家庭が一番。あったかい家庭で、家族の一員として、伸び伸びと暮らせるというのが一番だと思うんですよ。そして私自身、子どもたちと一緒に楽しい経験をたくさんさせていただいているの。」と本当に楽しそうな、ひまわりのような人柄の関口さん

下広瀬にお住まいの関口ヒサ子さんは、昭和53年に里親として登録。以後数多くの里子を預かってきています。現在も実子のほか里子3人が、毎日にぎやかに暮らしています。里親になったきっかけを伺うと、「そうね、もう一人ぐらい、子どもがいてもいいかなって思っただけ。とのこと。子どもが大好きで、自分の子もそうではない子も意識したことはなく、多いときには関口さんご夫妻と合わせて8人が一緒に暮らしていたそうです。関口さんは「見ているけど、手は出さない、口もなるべく出さない」という子育てで、目の届かないところが心配にならないかと伺うと、「でも、大きくなったら、いつも見張ってやるわけにいかないし、背負って歩けないでしょ。信じていけば大丈夫。それに、あんまり口を出してもダメ。子どもは自然に育つもの。愛を込め



「私は子どもに「教える」なんてたいそうなおことはできないの。せめて自分を正しくしておくこと。もしかしたら、子どもが見ていてくれるかも、なんて思っただけ。これが、関口さんの生き方だそうですね」

て見守ってさえいければ、自分で人生の勉強して、いつの間にか大きくなるの。」とのことでした。

また、「里親は、その子の実の親が育てられないときだけ、育てさせていただくという気持ちでいます。その子たちの家庭復帰と社会的自立を目標に、一緒に私も楽しみながら成長していくことができるんです。」と笑います。そして、「里親制度を知らない人、たくさんいらっしゃると思っています。短期で、極端な話、一晩だけ預かったりもできるんだから、「里親、里子」というイメージじゃなく、困ったときに、近くの実家代わりってところかな、そんなふうにご利用して、ださる人がもつと増えるといいですね。私は今まで里親として周囲の皆さんに支えていただきながら続けてきましたから、これからは経験を生かしながら、少しでも誰かのお役に立てればと思っています。」と言います。いつも笑っている関口さん。子どもがいる毎日が楽しくてしかたがないという様子でした。

私の趣味

家庭菜園



森 ヨシイさん
(中央在住)

3年程前に近所のかたに誘われたのがきっかけで、家庭菜園を始めました。最初は何も分からず、一から皆さんに教えていただきましたが、この頃は自分が作ってみたいと思っただけの家族が食べる分くらいは収穫できるよになりました。たくさん採れたときは、畑の仲間におすそ分けします。そしてみんなで協力しながら作った、安全でおいしいとれたての野菜に舌鼓をうっています。この畑のよいところは、みんなでもっとも仲良く楽しみながら野菜を作るところです。お日様をいっぱい浴びたまるとしたトマトやパプリカのキュウリ、シャキシャキと柔らかいレタスなど、買ったものでは味わえない贅沢なものです。家族もとても喜んでくれますし、水不足のときは、孫と一緒に水を運んでくれるんですよ。今までに一番びっくりしたのは、少し前にできたキュウリです。このキュウリは実の途中から葉が出てきたんです。近所の人に聞いてみたけれど、こんなのは初めてと言われました。私もとても不思議でした。これからは、趣味と実益を兼ねて、おいしい野菜をたくさん作りたいですね。